

## 「コウノトリ育む農法・無農薬栽培マニュアル」が完成 ～平成 30 年産のお米から活用スタート～

平成 17 年度から取組みを続けてきた「コウノトリ育む農法・無農薬栽培」の知見や技術、また、平成 26 年度から実施した「ポット成苗」を用いた無農薬栽培の実証結果に基づき、「コウノトリ育む農法・無農薬栽培マニュアル」を策定した。

### 1 目的

- (1) 市内で「コウノトリ育む農法」に取り組む全生産者に無償配布し、無農薬栽培の技術向上と普及を図る。
- (2) 販売面で、他のお米と「コウノトリ育むお米・無農薬」の差別化を図るため、バイヤーなどの実需者に対するアピール資料などとしても活用する。

### 2 策定までの主な経緯

- (1) 平成 17 年度  
「コウノトリ育む農法・無農薬栽培」を開始
- (2) 平成 25 年 12 月  
みのる産業(株)(岡山県赤磐市)と「みのる式有機栽培※」による無農薬栽培実証事業の協定を締結。同栽培方法の有効性を検証した。

※ みのる式有機栽培

ポット型の苗箱で大きく育てた苗を植える栽培方法。初期の生育がよく、雑草に負けにくい。また、機械による効率のよい除草が可能。

- (3) 平成 29 年 4 月  
「コウノトリ育む農法・無農薬栽培マニュアル策定委員会」を設置。3 回の委員会を開催した。

<マニュアル策定委員会名簿>

No.	所属等	氏名	備考
1	NPO 法人民間稲作研究所 代表	稲葉光國	座長
2	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 研究員	三浦重典	
3	生産者	成田市雄	
4	生産者	平峰英子	
5	J A たじま 営農課長	岡村達也	
6	兵庫県豊岡農業改良普及センター 普及主査	亀喜淳一	
7	みのる産業(株) 顧問	藤原正志	

### 3 マニュアルの概要

#### (1) マニュアルのポイントとねらい

J Aたじまが、同農法の作業の時期やポイントをまとめた「栽培こよみ」を作成しているが、本マニュアルでは、さらなる栽培技術の向上のため「なぜ、その作業が必要なのか」を体系的にまとめた。中でも、下記の項目において効果があると考ええる。

##### **ア 新たな無農薬栽培への取組み（新規就農者等）**

無農薬栽培最大の課題は抑草技術である。特に、新規就農者等にとっては、抑草を成功させることが最も重要となる。

##### **イ 収量や食味の高位安定**

収量と食味の高位安定が、生産者所得や販売拡大に重要な要素となる。

##### **ウ 無農薬栽培面積の拡大**

各作業のメカニズムが理解されることにより、作業が適切に行われる。効率の良い作業にもつながるため、取組み面積の拡大も可能となる。

#### (2) 仕様等

B 5 版、30 ページ、フルカラー

※ 現場で使用可能にするため耐水紙を使用

#### (3) 作成部数

500 部

※ 全生産者(約 240 人)、J Aたじま、関係者等に配布済み

※ 一般配布は行わない

[問合せ] 豊岡市コウノトリ共生部 農林水産課 TEL 0796-23-1127